

4-1

梅島小学校の「夢プラン構想」

実現に向けた取り組み

東京都足立区立梅島小学校前校長 川上 彰久

はじめに

本校では研究を中核とした学校経営を推進している。研究推進の究極の目的は授業を改善し、激動する国際社会の中で子どもたちにたくましく生きる力を身に付けさせることである。研究を通して教師の実践的指導力を向上させるとともに家庭学習を充実させ、授業の質を高めることを目指している。

家庭は、子どもにとって基本的な生活習慣等を身に付け、家族愛の中で心の居場所を見いだす場であり、子どもの教育の原点であると同時に最終責任者である。子どもは、家庭でのしつけを基盤として、学校や地域、社会での集団生活のルールやマナーを身に付ける。そして、学校で、自立した人間として社会で活躍するために必要な知識や技術を学び、集団の中で人間関係の基礎を身に付け、社会へ巣立つ準備をする。しかしながら現状を見るに、家庭を取り巻く教育環境が変化し、家庭事情の狭間に生きる子どもの実態がある。家庭環境がそのまま学校生活に反映し、学級担任が苦慮する場面が少なくない。

前任校では、二学期制を先駆的に実施し、学校と家庭・地域が協働して学力向上を目指して特色ある教育活動に取り組んだ。家庭学習充実のために、啓発資料「家庭学習のすすめ」を作成して、全家庭に配布し、個人面談や保護者会の資料として活用するなどして成果を上げた。また、PTAや地域関係者からなる子育て委員会を立ち上げ、子育て相談やケース会議を行い解決を図った。その実践は、文部科学大臣の話題に取り上げられ、また、東京都教育委員会学校褒賞の授与の対象ともなった。その体験が、現任校の学校経営の基底に流れている。

本校は、東武伊勢崎線梅島駅に隣接し、近代的な施設・設備を備えた児童数が700名を超える大規模校である。学校選択制自由化のため広範囲な通学区域、保護者の意識も多様であり中学進学に対する期待も高い。併せて特に配慮を要する子どもの指導も課題である。

平成20年度は学校創立120周年にあたり記念式典と研究報告会の実施を計画した。そこで、学校の実態を分析して学校経営戦略を練った。そして、夢プラン構想を立案。新学習指導要領の理念であるPISA型「読解力」の考えに基づいた「聴いて、考え、伝え・深める」授業を追究する。さらに、120周年事業と関連させて指導を展開し、夢や想いを育み、人間としての学びの基礎力を育成する。そのためには、教師が思考力・表現力を高める授業改善を図るとともに、学校経営方針に家庭学習の充実を明確に位置づけ、学校と地域・家庭が一体となって創意ある教育活動に取り組むことにした。

1 実態の把握

1 学校の状況

- 足立区のコアスクール指定校であり、研究開発・現職研修に力を入れている。
- 国立私立中への志願者が多い。生活態度は比較的落ち着いており、学力は、区平均以上だ

が、言語事項や応用力に課題がある。

- 区域外通学が3割弱、登下校の交通安全と生命
安全確保、学校外の生活指導に配慮を要する。
- 経験年数が浅い若手の教員が多い。算数におけ
る少人数習熟度別指導、一部教科担任制など
チームで指導する協働指導体制の素地はでき

ている。指導力向上と授業改善が課題である。

- 保護者は、教育に関心が高く期待も大きい。P
T A活動は組織的に行われているが、大規模
校のため運営に苦心している。地域の方々は
学校に協力的である。

2 学力と学習意識調査の分析

▶ 足立区学力調査の分析

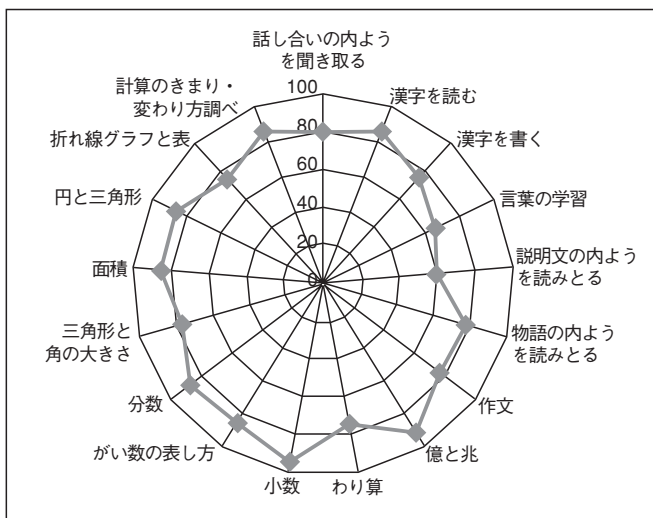
【国語科】

全ての学年の全領域及び全観点において、足立区の平均を上回った。全35項目中、2項目のみ平均を下回るが、それは両方とも漢字の書きである。目標値の達成率で見ると、梅島小児童は、全国平均と同程度の水準にあることがわかる。学年を経るにつれて、文章を「書く」力がついてきているが、文法などの「言語事項」を苦手とする実態も明らかになった。表現力の向上を図る研究が功を奏しつつあり、“書ける”梅島小の強みを生かし、「読む」力の育成へとつなげる。

【算数科】

6年生の「量と測定」以外の領域及び全観点で、足立区の平均を上回った。問題の内容を分析すると、全48項目中、区平均を下回ったものは2項目のみであり、バランスがとれている。目標値の達成率の比較においても、全国平均以上の力を示す。「時間」や「長さ」分野の指導が必要であるが、総じて、基礎基本で成果を得る足立区の傾向を反映しつつ、表やグラフ、数量関係など、数学的な考え方に基づいた「活用」面でも、力が向上している。

目標値の達成率(%)〈5年生〉



▶ 児童の自己評価

年間3回、児童対象に4段階評価で授業および学習習慣のアンケートを行っている(次ページの表を参照)。平均の数値から児童像を把握し、定観の動きを見ながら、指導に反映している。

中高学年の自己評価が向上している点は、アンケート結果を生活指導の月目標や週目標、そして「我が家の子育てプラン」とリンクさせながら自覚を促した成果である。

子どもの授業感想 学習や生活についてのアンケート集計 (左数値：第1回6月実施 右数値：第2回10月実施)

	1年平均	2年平均	3年平均	4年平均	5年平均	6年平均	専科平均
授業感想							
1 進んで学習に取り組んだ	3.7□3.7	3.8□3.8	3.4□3.4	3.3△3.6	3.2△3.5	3.4□3.4	3.7□3.7
2 授業の内容がよくわかった	3.7▼3.6	3.8□3.8	3.6□3.6	3.5△3.7	3.5△3.7	3.7▼3.6	3.8□3.8
3 授業が楽しかった	3.7□3.7	3.8▼3.7	3.6□3.6	3.7□3.7	3.2△3.6	3.5▼3.1	3.8▼3.7
4 自分の意見を述べようとした	—	—	2.7△2.9	2.9□2.9	3.2▼3.0	2.9□2.9	3.2▼2.5
学習や生活についてのアンケート							
1 自分の力をもっと伸ばしたい	3.8□3.8	3.9□3.9	3.6△3.7	3.6△3.7	3.7△3.8	3.7□3.7	
2 努力をすれば自分もたいいのことはできる	3.8□3.8	3.8□3.8	3.6△3.7	3.4△3.7	3.6△3.7	3.4□3.4	
3 ほめられるような得意なことがある	3.3□3.3	3.4▼3.3	3.0△3.2	2.9△3.0	3.2□3.2	2.9□2.9	
4 わからないことはわかるまで努力している	3.2△3.6	3.7□3.7	3.3△3.4	2.9△3.1	3.0△3.2	3.0△3.1	
5 既習事項や経験を生かして考えている	3.5△3.6	3.6▼3.5	3.3△3.4	3.2△3.3	3.0△3.3	3.1△3.2	
6 宿題は必ずやっている	3.9▼3.8	3.8△3.9	3.6△3.7	3.4□3.4	3.6△3.7	3.2△3.3	
7 早寝早起き朝ご飯 規則正しい生活	3.5▼3.4	3.5△3.6	3.2△3.5	3.3□3.3	3.3▼3.2	3.1▼3.0	
8 先生の話をしっかり聞き、行動している	3.8▼3.5	3.8▼3.7	3.4□3.4	3.3□3.3	3.2△3.4	3.1▼3.0	
9 忘れ物をしないように気をつけている	3.7▼3.6	3.7△3.8	3.5△3.6	3.3□3.3	3.4△3.6	3.3□3.3	

△：向上 □：変化なし ▼：低下

▶ 児童の自己評価を生かした授業改善の視点

① 授業アンケートの活用

上記の児童の授業アンケートの選択肢式の結果に記述式の回答を関連付けて分析し、学習内容や学習環境について、各学年で重点目標を設け、授業改善を行った。

- 1 学年…個に応じた問題を用意する
- 2 学年…音読の教材を集め、系統的に提示するとともに、自己評価がしやすい工夫をする
- 3 学年…内容に合わせた話し合いの場面を適切に取り入れる
- 4 学年…体験的学習、実験を増やし、そのなかで自分の意見を発表する場を設ける
- 5 学年…実験を増やす等体験活動を充実させるとともに自分の意見を発表する場を設ける
- 6 学年…自分の考えをより明確化させる支援を行い、話し合う基盤づくり、雰囲気づくりをする

② 児童の授業見学

他学年、他クラスの授業見学を交互に行う機会

を設け、自己評価の視野を広げられるようにした。学習の場を客観的にとらえ、発表の仕方の工夫や聞く態度、学びの系統性等、各学年の学習について理解するように配慮している。

その結果、発言の声の大きさと内容のまとめ方、聞く立場での姿勢や視線、作業での目的意識などの態度に関する気付きや、ハンドサイン、発言の話形、美しいノート形式等の工夫気付き等多くのことに気付き、自ら授業参加し、意欲的に取り組むようになった。

③ 学びの共同体

その道の専門家を招き、学習に参画していただき、生き方や考え方を直接学ぶ体験学習の場とする。人生の先輩として、その道に取り組む真摯な態度、生き方に共感し、学校生活に夢と意欲をもつことができた。

宮本和知氏(元プロ野球選手)、佐藤平八氏(友禅染)、劇団「四季」(美しい日本語)、文化庁ダンスコレクション(タップダンス)等

3 「学力向上のための基本調査2008」の分析（6月調査 対象児童5年 127名）

	◎よい	△課題
家庭学習力	<p>〈自立心〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 家で勉強することで、学校での勉強がわかるようになった。(88.8%) やり遂げる目標を決めて取り組んでいる。(83.2%) 目標を達成して、うれしいと感じた。(87.2%) <p>〈自己学習力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の先生が出した宿題をきちんとやり遂げている。(95.2%) 	<p>〈学習マネジメント力(自己マネジメント力)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日どんな学習をしたかノートなどに記録をつけるようにしている。(54.4%) <p>〈生涯学習力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 家から野外キャンプなどの体験活動に参加したことがある。(46.4%) 自主的な調べ学習をするために、地域の資料館などを活用している。(48.0%)
社会的実践力	<p>〈問題解決力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる。(88.8%) 様々な角度から、ものごとを考えることができる。(88.0%) コンピュータやビデオ、本、カメラのそれぞれの良さを生かして情報を集めることができる。(84.8%) 	<p>〈自己成長力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな仕事が自分に合っているのかわ知っている。(67.2%)
学びの基礎力	<p>〈基礎体験〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族は、自分のことを気にかけていると思う。(95.2%) <p>〈自己効力感〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う。(96.8%) 	<p>〈学びに向かう力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強して身に付けた知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う。(88.8%) 社会や人のために役に立つ人間になりたい。(88.0%)

(考察)

●教科学力に関しては、全体的に平均を上回っているが、次の項目の学力向上を図る必要がある。

◇国語

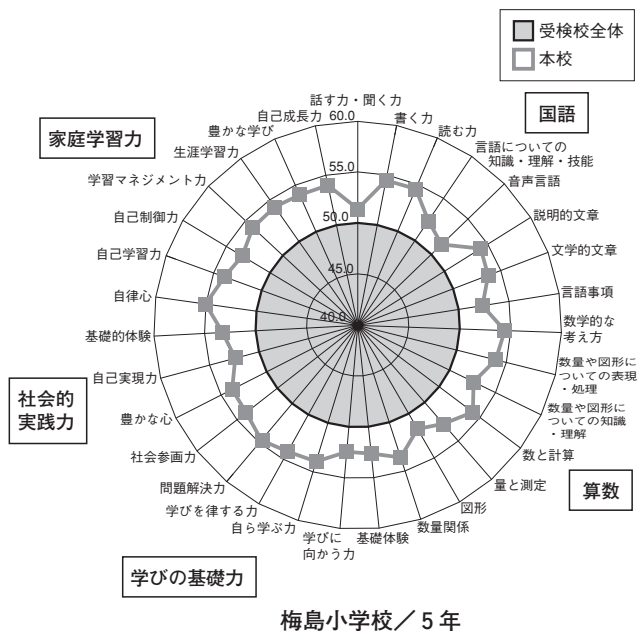
- 話す力・聞く力 ○音声言語 ○言語事項
- 言語についての知識・理解・技能

◇算数

- 数量や図形についての知識・理解 ○図形

●学びの基礎力では、将来の職業、これからの生き方に対する意識や意欲が他校より若干低い。家庭・地域での体験活動の啓発により、学びに向かう力を養う。

●保護者の家庭学習支援力は、全体的に受検校平均を上回っている。特に、高かったのは、生活習慣の確立支援である。しかし、保護者の学びの参画(P T A活動等の参加)は、低い傾向が見られる。

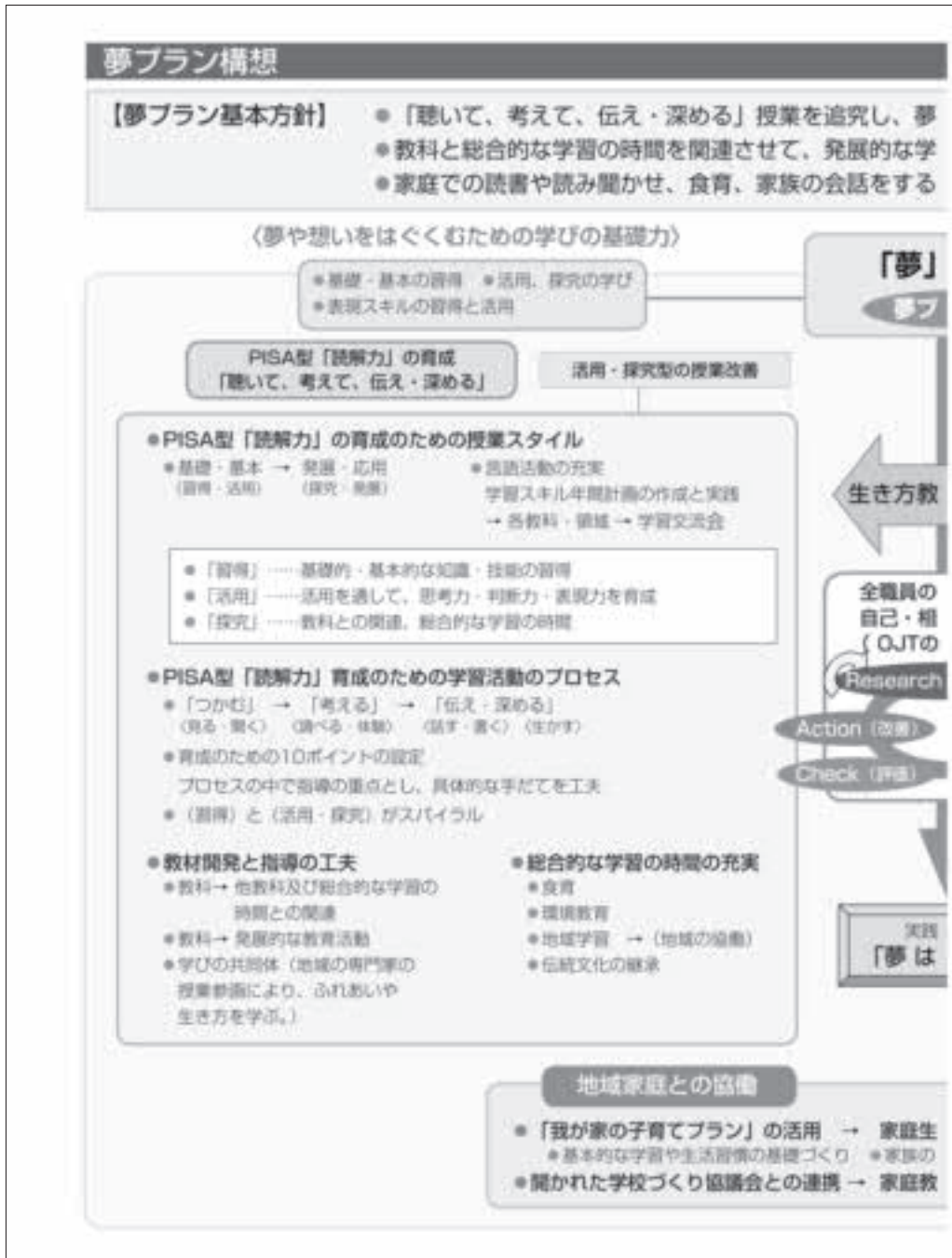


1 夢プラン構想

研究課題、PISA型「読解力」の考え方を基盤とした授業づくりと120周年事業を関連づけて、夢や想いを育むための学びの基礎力を養い地域に根ざす子どもを育成することを願い、夢プラン構想を立て、家庭・地域を巻き込んで創意ある教育活動を展開する。

つまり夢や想いを実現するために目標をもってチャレンジする子どもの育成を目指し、家庭・地域と協働すること。そのためには「研究を通して授業を変える。子どもが変わる。保護者が変わる。そして、学校が変わる」を主眼として学校経営を推進している。

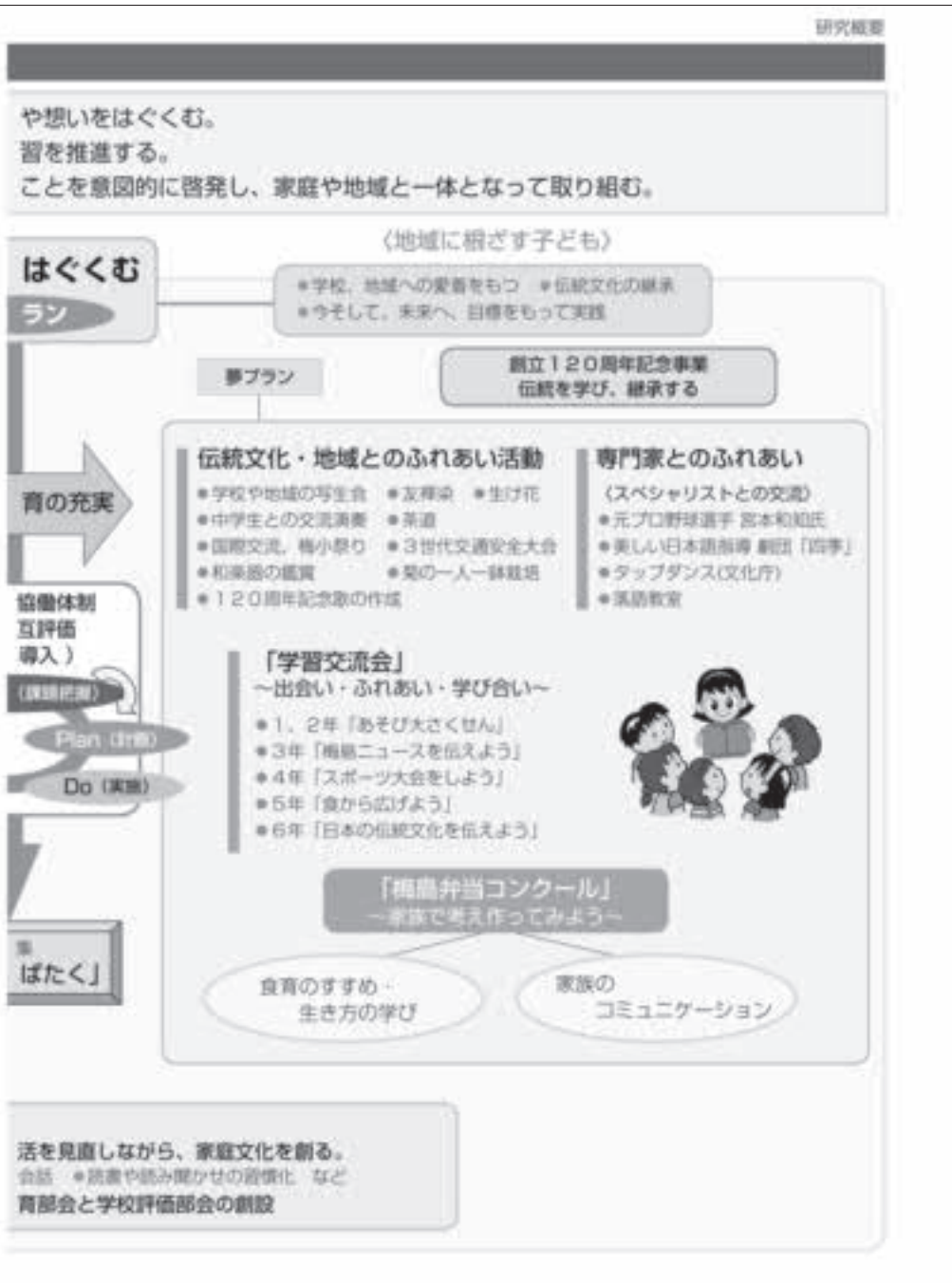
夢プラン構想図



(夢プラン基本構想)

- 「聴いて、考えて、伝え・深める」授業を追求し、夢や思いをはぐくむ。
- 教科と総合的な学習の時間を関連させて、探究的な学習を推進する。

- その実践を整理し全128ページの実践集『夢—はばたく』を作成し、全児童と教職員、保護者・地域関係者が末永く共有する。
- 家庭・地域と連携し読書活動、食育、会話を奨励し、家庭学習を充実させる。



2 学校経営上への家庭学習充実の位置づけ

120周年記念事業と足立区教育委員会コアスクールの研究報告会を最重要課題とし、実態を分析し、おいしい給食モデル校としての実践研究を家

庭学習の充実と関連づけを図り、平成20年度の重点課題に家庭学習の位置づけを明確にして取り組むことにした。

(1) 平成20年度の学校経営重点目標

	内 容	実施期間(平成)				
		18	19	20	21	22
1	確かな学力向上PISA型「読解力」授業づくりの研究開発	△	△	○	○	○
2	創立120周年関連事業の創意ある教育活動の取り組み		△	○		
3	健康・体力の保持増進と生命・安全対策と安全確保	○	○	○	○	○
4	学びの基礎力をはぐくむ家庭学習の充実	△	○	○	○	○
5	おいしい給食モデル校と学校評価システム開発研究		○	○	○	

(2) 家庭学習充実のための方策と評価指数

- 120周年記念式典11月8日に向けて家庭地域と一体となって取り組む。
- 梅島弁当コンクールの実施 3年生以上全児童対象 1、2年生は自由参加。
- 学校説明会等保護者・地域への啓発活動を行う。保護者会の参加率年間70%以上。
- 家庭啓発資料「我が家の子育てプラン」を改訂し、家庭学習、学びの基礎力をアップする。
 - 家庭学習習慣の定着
 - 読書のすすめ
 - 早寝早起き朝ご飯の励行95%以上
- 図書ボランティアと連携して年間計画に基づき「読み聞かせ」指導、年2回の読書週間で読書感想文発表会などを行い読書活動を進める。
- 開かれた学校づくり協議会家庭教育部会とPTAが共催して家庭教育活動を始動させる。
 - 保護者地域とのふれあい梅小まつり
 - 食育講演会の実施
 - 3世代交通安全大会
- PTAと連携して登下校の安全指導、学区安全マップの作成と交通事故ゼロをめざす。
- 開かれた学校づくり協議会年6回、学校評価部会による学校評価書を作成する。

(3) 学びの基礎は家庭から「我が家の子育てプラン」

子どもの教育の原点は、家庭である。家庭で身に付けたことは生涯、心の拠り所として生き続け成長する。子どもにとって家庭は安らぎの場、親の笑顔、愛されている実感が家庭の絆を強める。家庭のしつけは最大の贈り物である。

このように学びの基礎は家庭で養われ、学校の集団生活を通して、人間としての生きる知識技能、豊かな心と健康な体が培われ、社会に巣立つ準備をする。

そこで、学びの基礎力を育むために積極的に家庭に働きかけ、家庭学習の充実を図っている。そして、保護者が、家庭教育の重要性を再認識するとともに家庭教育の充実を図っていく指針となるようにする。

◆活用の方法

- 個人面談や保護者懇談会で活用する。
- 保護者は、家庭生活点検表を年4回チェックする。

【チェックの時期】

- 第1回 7月 第2回 10月
- 第3回 12月 第4回 3月

- 梅島ファイルで保管する。

◇家庭学習の充実（我が家の子育てプラン）
「人間力育成」のため、学びの基礎となる家庭学習の充実を図る。

作成のポイント

家庭で取り組んでほしいことをデータで示し、その必要性・大切さを示す。

学習と基本的な生活習慣の定着との関係をデータで表し、心身ともに健康的な生活をするためには、はじめのある生活が必要であることを示す。

家庭での豊かな会話が、学習に良い効果をもたらすことをデータで表し、家族での会話やコミュニケーションが大切であることを示す。

皆さんの家庭ではいかがですか
「人間力育成」の生活習慣についてお聞きします
～1日1生活習慣～

心身に健康的な生活を送るためには、毎朝新しい生活が必要不可欠です。
ご質問と基本的な生活習慣の定着との関係を示しています。(図1)

項目	学習と生活習慣の定着	学習と生活習慣の定着	学習と生活習慣の定着	学習と生活習慣の定着
朝起きる	77.6	70.7	66.6	64.3
歯を磨く	76.7	75.3	71.0	66.2
朝ごはんを食べる	76.5	76.6	71.8	62.3
お風呂を洗う	76.0	77.2	74.2	69.3

※図1は、学習と生活習慣の定着との関係を示しています。学習と生活習慣の定着が、学習と生活習慣の定着に大きく影響を及ぼしていることがわかります。

心身ともに健やかな 子を育てるために…

「人間力」の育成
豊かな心、豊かな力、健やかな体と体力

家庭教育の充実
基礎教育、発展教育

学びの基礎をばぐむ
生活習慣、読書、学習

我が家の子育てプラン

① 基礎・基本の学習の定着
- 朝起きる、歯を磨く、朝ごはんを食べる、お風呂を洗う、朝起きる、歯を磨く、朝ごはんを食べる、お風呂を洗う、朝起きる、歯を磨く、朝ごはんを食べる、お風呂を洗う

② 基礎で定着した学習をしていく
- 読書、算数、国語、英語、音楽、美術、体育、保健、社会、理科、外国語、情報、総合的な学習の時間

③ 基礎・基本の学習の定着
- 朝起きる、歯を磨く、朝ごはんを食べる、お風呂を洗う、朝起きる、歯を磨く、朝ごはんを食べる、お風呂を洗う

イキイキワクワク！我が家の子育て5つのすすめ

心づくりを育てる
○人と人の間に育つ、人間となる
子どもの心に寄り添い、気持ちを大切に育てましょう。

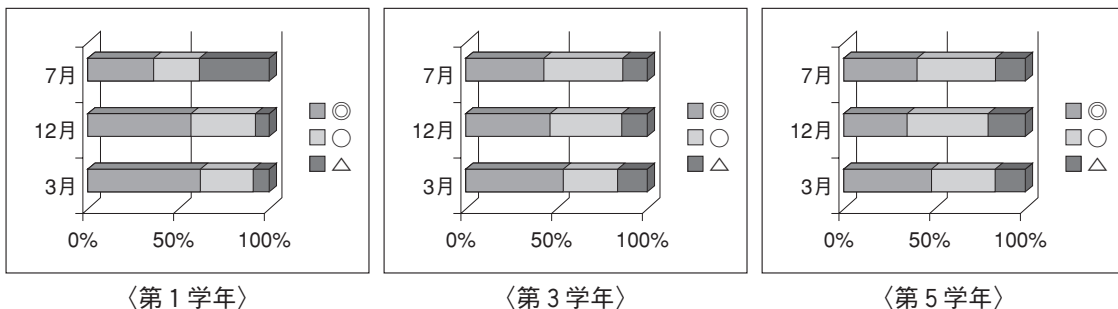
生活のリズムを整える
○「朝食をしっかりと食べ、生活リズムを安定させること」で学ぶ元気をつくります。

家族と語り合う
○「親子の会話」は、心を安定させ、豊かな高読解力を養います。育風な会話の中に、愛情あふれる言葉が大切です。

我が家の子育てプラン —家庭での評価分析

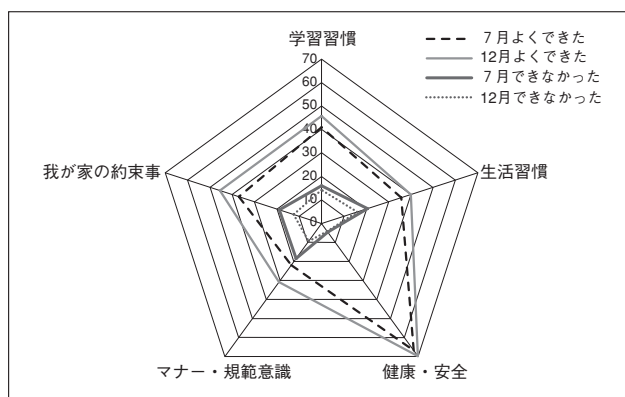
◇基本的学習習慣の定着

1年生での定着率がかなり上がっている。入学当初からのきめ細やかな指導の成果と考える。3、5年生でも「◎よくできる」の割合が少しずつ、上がってきている。学校と家庭が連携し、指導しているためと考えられる。しかし、3、5年生では、「△あまりできない」の児童の減少率が少ない。



◇全体的な傾向

平成19年度学校全体の項目別の「◎よくできた」「△できなかった」児童に着目した定着率のグラフである。「◎よくできた」の児童に着目すると、7月、12月ともに「健康・安全」の項目が最も高い。それに比べ「マナー・規範意識」は、7月は、全校平均21.9ポイント、12月は、30.8ポイントと増加はしたが、5項目の中では最も低い結果であった。「言葉づかい」は、全学年を通して指導する必要がある。



◇「我が家の約束事」

「我が家の約束事」となっている項目で各学年ともに多いのは「うそをつかない」「時間を守る」といった項目である。平成20年度4月の「◎よくできた」の項目の定着率が4年生を除いて低い。各家庭で身に付いていない項目を選択していることも考えられる。今後この項目がどのように変化していくかの推移に注目し、道徳の時間や学級活動の指導に役立てる。

(%)

我が家の約束事	平成19年度 7月			平成19年度 12月			平成20年度 4月		
	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
1年	30.3	45.1	24.6	31.1	50.8	18.0			
2年	43.3	40.0	16.7	51.7	35.0	13.3	29.5	51.4	19.1
3年	37.3	45.1	17.6	46.6	41.3	12.1	30.0	43.7	26.3
4年	30.3	45.1	24.6	31.2	50.8	18.0	53.6	32.5	13.9
5年	43.3	40.0	16.7	51.7	35.0	13.3	38.1	37.4	24.5
6年	37.3	45.1	17.6	46.6	41.3	12.1	27.1	56.6	16.3
平均	37.0	43.4	19.6	43.1	42.4	14.5			

※平成19年度と平成20年度は、同児童のデータである。

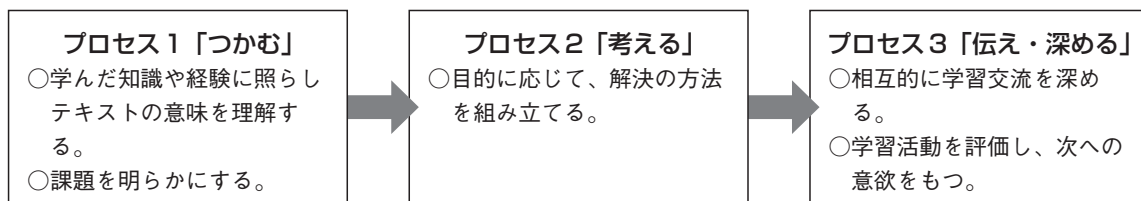
3 カリキュラム開発 授業実践

1 授業の転換 日常生活で活用できる学力の育成




「聴く、考える、伝え・深める」プロセスを重視した授業のあり方を追求するとともに、学びの基礎となる学習スキルの年間計画を立て、学習したことを家庭等の日常生活で活用できることをねらいとしている。

(1) 活用・探究型の授業づくり

「聴く(つかむ) — 考える — 伝え・深める」プロセスを重視した授業



(2) 国語科の重点課題 —内容を正確に理解し、感じたことや自分の考えを伝える授業の工夫—

<p>1. 身に付けさせたい力の明確化</p> 	<p>ポイント2 活動の意味付け(目的意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童に提示する見本や解説本等は、児童に身に付けてほしい力を明確にして作成する。 ●プレゼンテーションや話し合い活動等においても児童に活用してほしい工夫を見本として示し、学習活動に目的をもって主体的に取り組むことができるようにする。
<p>2. 学び合いの工夫</p> 	<p>ポイント4 対話活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ●相手の意図を汲んで共感して聞いたり、相手の気持ちを汲みながら意見を言ったりと学び合いの視点を明確にし、自分の思いや考えを伝え合う場を設定する。 ●ペア学習、グループ学習を通して、互いに意見交流をし合い、互いのよさを認めたり個々の考えを深めたりする。
<p>3. 日常生活への活用</p> 	<p>ポイント9 体験の言語化(言語活動の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●言葉だけの知識だけでなく身に付けた力や学んだ方法を活用するために、関連図書を読んだり、ポスターセッションを取り入れるという課題探究型の活動を取り入れる。 ●自分の考えを自ら進んで伝えることができるように、学習スキル年間計画をもとに発表や討論等、学年に応じた様式を段階的に取り入れる。

(文科省PISA型「読解力」の指導を参考に指導のポイントを決めた。)

(3) 成果と課題

- 身に付けたい学力を明確にしたので、スピーチや話し合い、学習スキルを習得しようと意欲的に学習に励むようになった。
- 子どもの実態に即した課題設定やテキスト選択・提示の方法についてさらに追究する。

2 学習スキルの年間指導計画 前期用

言語力の育成のためには、学習スキルを身に付けさせることが重要である。そこで、教科の指導内容の関連づけを図り、発達段階に応じて、下記のように年間計画を立てた。国語科の学習内容が

中核になるが、各教科の調べ学習や探究型の総合的な学習の時間、学校・学級での日常活動、家庭生活を通して活用できるように意図的に働きかけ指導する。

	4月	5月	6月	7・8月	9月	10月
1年	<ul style="list-style-type: none"> あいさつごっこをしよう 自己紹介をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> すきなものを紹介しよう 声のものさしに気を付けて話そう 学校探検クイズ 	<ul style="list-style-type: none"> おもしろいおもちゃを紹介しよう 話し方、聞き方名人になろう 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったことを書こう(絵日記) ◎遊び方を紹介しよう(ポスターセッション) 招待状作り 	<ul style="list-style-type: none"> 読み方を工夫して詩を読もう めいしで自己紹介しよう(対話) 	<ul style="list-style-type: none"> おうちの人に招待状を書こう 紙芝居作り「乗り物を知らせよう」
2年	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介スピーチをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの進め方を知ろう 見つけたことを書こう「学校探検」 	<ul style="list-style-type: none"> 宝物を知らせ合おう 聞き方名人になろう 手紙を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> ◎おもしろいおもちゃを紹介しよう(ポスターセッション) 楽しかったことを書こう 	<ul style="list-style-type: none"> 感想文を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真で楽しく表そう 「学校探検で見つけたよ」
3年	<ul style="list-style-type: none"> 話し方に気をつけて、スピーチメモを書く メモを使って書こう 	<ul style="list-style-type: none"> 司会、発表者を決めて話し合いをしよう 2人組、3人組で 	<ul style="list-style-type: none"> ◎インタビュー名人になろう「わが町梅島」 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ニュースキャスターになろう「梅島ニュース」 	<ul style="list-style-type: none"> 感想文を書こう 新聞を作ろう「わが町梅島」 	<ul style="list-style-type: none"> 読書発表会をしよう 組み立てメモをもとに説明文を書こう
4年	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を意識して、自己紹介スピーチをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 司会者、発表者、記録者を決めて話し合いをしよう お礼の手紙を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いをして新しいスポーツを作ろう お薦めの本を紹介しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ポスターセッションで話し合おう「スポーツ大会をしよう」 詩の発表会をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 構成を考えて感想文を書こう 楽しく伝え合おう 学級新聞を作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> 読書発表会をしよう 記録文を書いてみよう
5年	<ul style="list-style-type: none"> 司会の進め方を知ろう より良い話し方、聞き方を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチの仕方を学ぼう 	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットで知らせよう「食」 感想の表し方を学ぼう 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ポスターセッションで紹介しよう 新聞づくり「社会科新聞」 	<ul style="list-style-type: none"> 討論会をしよう(ディベート) 	<ul style="list-style-type: none"> コラムの書き方を知ろう
6年	<ul style="list-style-type: none"> 司会を効果的に進めよう スピーチを工夫しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 情報をもとに考えをまとめて書こう「社会に目をむけて」 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチ発表日本の伝統文化を伝えよう(留学生交流) 日光自然教室の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日本の伝統文化を伝えよう(留学生交流) スピーチを工夫しよう 	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションをしよう「未来の車」 パンフレットを作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> 報告文の書き方「人類よ宇宙人になれ」

3 子どもに家庭学習・宿題に取り組ませる工夫

実践例 1年「かていがくしゅうノート」

入学して学校生活に適応するために、初歩の段階から学習習慣や家庭学習習慣を身に付けさせることが大切である。そこで、1日20分程度の家庭学習を勧め、学習準備の点検、毎日の音読、読書カード、日記をB5用紙1枚にまとめることにより、保護者と子どもと一緒に家庭学習の点検をするとともに親子の会話のきっかけになることを願って実践している。

(1) 保護者への提案、協力依頼

年度始めの保護者会で、学級担任から提案し協力依頼した。そして、5月21日から実施。まず、「家庭学習の手引き」を作成した。手引きは1年生にも読めるように、ひらがなで6項目を示し、保護者向けに説明をするとともに子どもたちに口頭で家庭学習の仕方についてオリエンテーションをした。そして、教科学習の進度に合わせて、7月、11月に内容を一部変更して取り組ませている。

(2) 取り組みの内容

5月21日から、宿題・音読、時間割をそろえる、鉛筆を削る、学校のことを親に話すことの5項目から始めた。「かぞくから」の欄には、子ども向けに励ましの言葉を記入していただくことにしている。

各月ごとに1冊にまとめ整理して、学級で保存して友達と交換することができるよう配慮している。

7月からは、読書の欄と1文程度の日記を加え、7項目とした。日記は、「せんせい、あのね。」の形式で始め書くことに抵抗感のないようにして取り組んだ。

11月からは、書く量を増やし国語の時間で学んだ漢字や語彙を使うよう助言した。

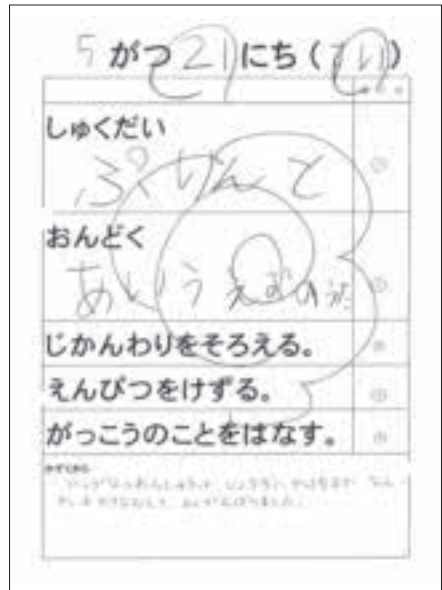
(3) 成果と課題

学習用具の忘れ物は少なく、保護者は、学校に協力的でありコメントも子ども向けの愛情ある文章が多くなっている。文章力も身につく、音読カード、読書カードが1枚にまとめられるようになってきている。そして、年間を通して1冊にまと

めることにより、成長の様子が一目で分かり、良い記念になるとの親の声があった。

本年度後期から、区の施策として小1プロブレムを解消するために、35名以上の1年生の学級では副担任制を試行している。4学級に2名副担任講師を導入し、学級担任とT・Tによる学習指導に加えて給食指導や生活指導、宿題の点検活動などを行っている。1名は幼稚園経験者を任用し、学習習慣、生活習慣の定着に成果を上げている。

5月の例



11月の例



4 家庭学習・宿題を活かした授業展開の工夫

実践例 6年国語「予習を取り入れた授業」

これまでの家庭学習は、基礎基本の習得型の授業を補完することをねらいとした授業の復習が主流であった。しかし、思考力・表現力の育成をねらいとした授業を展開するためには、漢字・計算・音読などの復習、反復練習を中心とした家庭学習だけでは限界があろう。学習内容によっては、授業と関連させ、単元構成の段階から子どもを関与させ教科書内容に目を通し、事前に調べたり、考えをまとめさせたりして授業に積極的に主体的に取り組ませることが必要になってくる。家庭学習は復習中心から予習へとシフトさせることが重要になる。

(1) 説明文単元で予習を取り入れた動機

- 「聴いて・考えて・伝える」授業を意識して展開するので、考えを発表し合い意見交流する時間を十分に確保する。
- 一人ひとり読み取り表現する時間には個人差が大きい。そこで、家庭学習で一人読みを行えば、児童は時間を気にせず繰り返し読みながら、自分の思いを時間をかけてノートに表現することができる。
- 本校第6学年は、一部教科担任制を導入しているため、国語の時数は学級担任が3時間、講師が2時間指導している。そのために、一人で読み取る学習の一部分を家庭学習にすることで時数が節約でき学級担任による指導を充実させることができる。

(2) 取り組みの内容

最初は、家庭学習ではなく授業中にやり方を説明しながら一人読みを指導する。次に、各自読み取ったことを持ち寄り、ペアグループで話し合う。そして、全体に考えを発表し合う。家庭学習に際しては、それまでに、学習の仕方を理解できるようにすることが大切である。

説明文の一人読みでは

- 字数を指定して要約文を書く。
- 分かったことをまとめる。また、図や絵で表現しても良い。
- 児童には事前にプリントを配布しておき、筆者の工夫点を見つける。

- 文末表現に注意して、筆者の考えを見つける。
- 筆者に対して自分の考えを書く。



(3) 成果と課題

- ペアグループで話し合う活動を取り入れたので、日頃、漢字・計算学習の宿題はやってこない児童も予習をやってくるようになった。
- ペアグループで話し合うことにより、友だちの考えを聞き、自分が読み取らなかったことも気付くことができた。
- 次の家庭学習では、友達が読み取ったことや内容を参考にして、読み取る視点が広がり、項目が増えていった。
- 学習に遅れがちな児童も分かるところからやれるので、意欲的に取り組んだ。
- 選択肢がある問題や考え方を問う問題については、夕食時に家族で話し合ってくれることを期待している。会話が増え大人の考えを知ることができ視点が広がる。

4 家庭・地域参加型の創意ある学習活動

1 梅島弁当コンクール

▶ねらい

- ①児童が望ましい食習慣を身に付けるには、学校や家庭、地域の連携が重要である。120周年を契機に梅島弁当づくりに取り組むことは、給食が生きた教材として給食時間をはじめ各学

年で食に関する指導を教材として食育を進め「生き方」の学びを身につける機会となる。

- ②家庭においては親子のコミュニケーションを図り家族の絆を深める。

▶取り組みの経過

<6月>

- 1～2年生「バランスよく食べよう」の授業を栄養士が行う。
- 3年生は「好き嫌いをなく食べよう」の授業を担当が行う。
- 4年生は総合的な学習の時間に授業を行う。
- 5～6年生は家庭科で授業を行う。

<7月>

- 給食委員会が「バランスのとれた栄養弁当をつくろう」の委員会発表をする。
- 学校保健委員会において「食育」をテーマに話し合う。



<8月>

- 8月25日（月）各クラス5点程度優秀作品を決める。22クラスから90点を展示。
- 8月27日～28日 クラスごとに作品を鑑賞し投票する。子ども賞「北京オリンピックの弁当」

弁当づくりの条件

- ①夏休み期間を使って親子で考える。
- ②栄養のバランスを考えたメニュー。
- ③家族のアイデアがあふれた弁当。
- ④食材は旬の物や足立区特産品を用いる。
- ⑤材料費は400円位の予算の範囲で。
- ⑥色えんぴつ等で、はっきりと着色。



どの作品も上手でした！



1点選ぶのが難しかった！

〈梅島弁当給食〉

●第一回 11月7日（木） 学校長賞を受賞した作品「あだち区特産小松菜入り 祝梅小弁当」を梅島弁当として給食に足立区長や学校づくり協議会の方々、PTAの役員の方々、受賞した児童の保護者の方々を招待して会食会



●第二回 1月29日（木） コアスクール研究報告会、足立区長賞の「あだちまるごと弁当」給食



2 実践は家庭・地域・学年間の交流授業へ発展

食育講演会



8月30日（土） 受賞した児童保護者の方々やPTAの方々、地域の方々が出席。梅島弁当コンクールの表彰式。その後、開かれた学校づくり協議会家庭教育部会主催の食育講演会を開催。

足立区おいしい給食まつり

おいしい給食モデル校として体験発表



10月25日（土） 給食委員会児童と受賞した児童代表8名が、「足立区おいしい給食まつり」で梅島弁当コンクールについて区民に発表。

6年家庭科と3年図工の授業実践例

梅島弁当コンクールの体験を生かして、3年生は図工で工作弁当作り。6年生は家庭科調理実習として梅島弁当のメニューを見直し、弁当を作っ

家庭科6年「お弁当作り報告会をしよう」



お弁当作りの感想や次に取り組みたいことを発表

「おいしい」お弁当作りのコツを確認。

た。そして、社会科見学の弁当に卵焼きを入れ、冬休み中も家庭でも取り組んだ。そして、調理実習で卵焼き弁当作りを行い、ランチルームで3年生と会食して交流を深めた。

図工3年「梅島弁当をつくろう」



できるだけ分かりやすい言葉で伝え合いました

できあがった工作弁当を見合って、メッセージを交換。

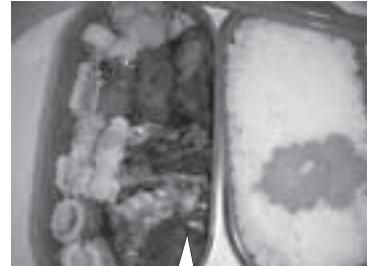
お弁当作りの成果を発表!!



卵焼きは3回目うまくできた。



給食の主事さん・お母さんって大変だな。



色どりを考えてつめました。



工作弁当を作った3年生と交流給食会お互いのお弁当に満足。



3年生の工作弁当！本物みたい。

3 参加型の特色ある学習活動

学校の教育活動に家庭・地域の参画が求められている。保護者地域の方々の関心を高め、子ども

の学びに価値ある創意ある教育活動を展開することが大切である。

「三世代交通安全教室」



保護者や地域の方々も参加して、共に交通安全の学習、地域の安全意識を涵養

「学習交流会」



6年生「日本の伝統文化を調べよう」の剣道グループは、海外留学生に伝授

2年生活科「明日へジャンプ」



保護者がゲストティーチャーとして赤ちゃんの世話の仕方をアドバイス

「夏祭り」



夏祭り、保護者・地域の方々との触れ合い

4年生「二分の一成人式」



保護者参加90%以上、
我が子の成長に感慨もひとしお

「親子会食会」



卒業間近な我が子と会食

5 これまでの取り組みの成果と課題・今後の展望

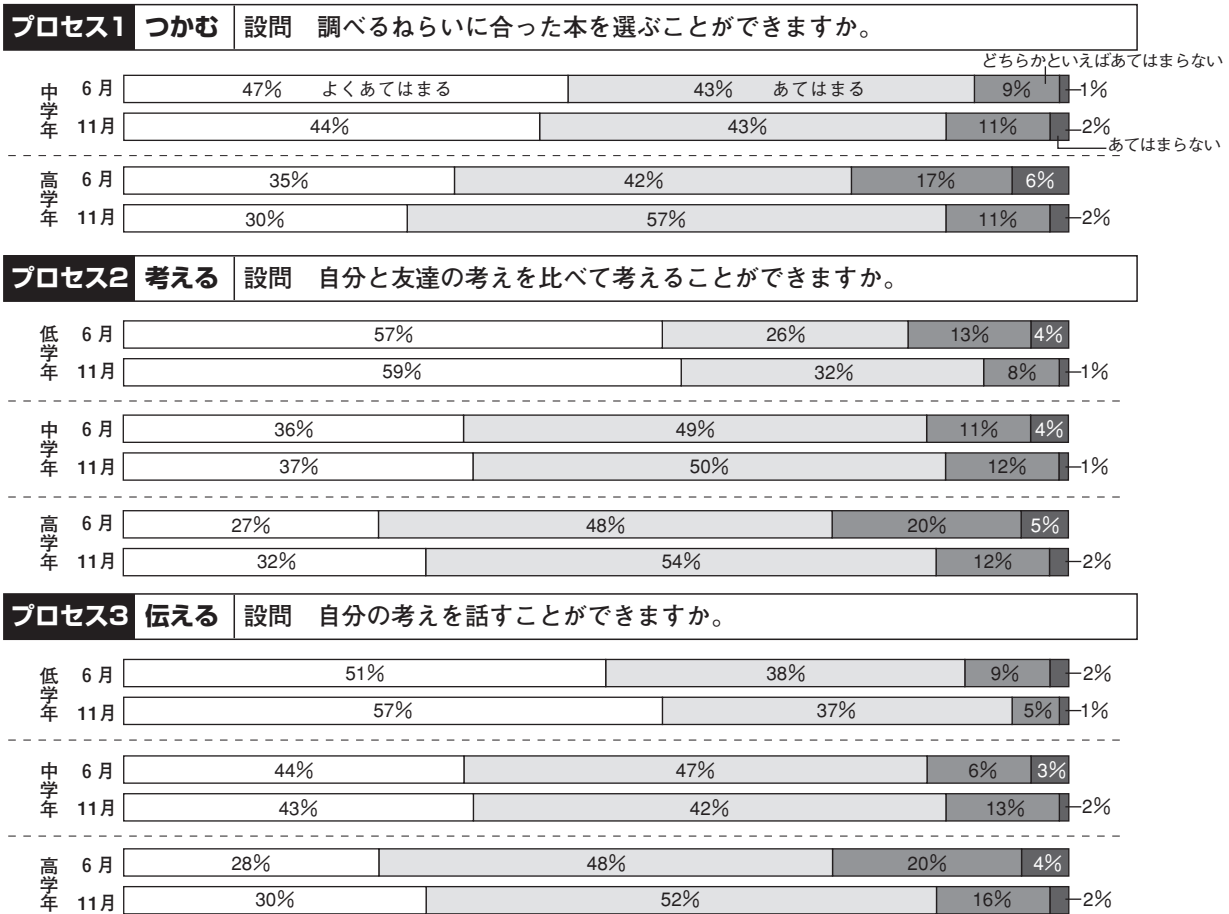
家庭学習の充実を図るために、研究と120周年に関する事業を関連付けて学校が主体となって家庭・地域と協働して創意ある教育活動に取り組んできた。

特に平成20年度は、PISA型「読解力」の考えに基づいた活用・探究型の授業を追究してい

る。そして、全教育活動を通して、「課題をつかむ、考えを実践する。その成果を伝え深めること」を基本スタイルとして指導し、学校生活や家庭・地域の日常生活を通して活用することを目指し、成果を上げているといえよう。まず、次の意識調査の結果を考察する。

平成20年度PISA型「読解力」に関する意識調査

平成20年6月、11月調査（全児童 759名対象）



6月に比べて肯定的回答が増加し、概ね80%の子どもができるかと答えている。日常生活でも学習したことを応用して活かしているといえる。

次に、国、東京都、足立区、Benesse教育研究開発センターの調査結果を見ても概ね良好である。

また、「我が家の子育てプラン」の基本的学習習慣・生活習慣の定着率が1年生では、9.4ポイント、全校のマナー・規範意識は8.9ポイント増

加している。

そして、研究報告会や学校視察の方々も「先生と子どもが一生懸命授業に励んでいますね」と口々に感想を述べる。

このことは、学校と家庭・地域学習の総合的な評価であり、家庭学習の成果と考える。

今後とも、研究開発と人材育成を基軸とし、家庭・地域を巻き込んだ創意ある教育活動を展開し家庭学習を充実させ、家庭・地域に根ざした教育を推進していきたい。